

7/16 期日

戦争は「想定外」で済まない

フリー編集者

(北海道 50)

安全保障関連法案で何よりの疑問は、安倍晋三首相が言う「抑止力」が本当に戦争が起ることを抑え、平和と安全をもたらすのかという事です。この疑問をぬぐい去る議論が、国会審議で尽くされたとは私には思えません。

「抑止力が高まることで、我が国が攻撃されるリスクは当然低減をしていく」と安倍首相は言います。しかし国会で繰り返される「抑止力」の言葉は、実体がなく空虚にしか聞こえてきません。

思い出すのは、絶対安全といわれた原発が東日本大震災で重大事

故を起した際、「想定外」という言い訳が連発されたことです。いつか戦争が起きたら同様に「想定外」で済まされてしまわないかと疑念と不信でいっぱいです。

国民の多くが、この法案に納得していないことは各世論調査でも明らかです。地方議会からも反対の声があがっています。国民の思いを代弁するのが代議制の基本ではないでしょうか。

心ある与党議員の方に、本会議の採決でどうか反対票を投じていただきたい。党内でも反対意見を堂々と述べられることです。本党の民主主義であり、言論の自由であると強く思います。

憲法の理想損なう安保安法

地方公務員

(秋田県 52)

この国のかたちを変えてしまおうほどの安全保障法制が、今の国会で成立する見通しになったようです。しかし、成立を急ぐ政治家の皆さんには、現行憲法が持つ、約70年の重みをもつ一歩かみしめてほしいと願います。

憲法改正を党是として掲げる自民党が長く政権の座にありながら改正は実現のめざせませんでした。それは、多くの国民がこの憲法を支持してきたからではないでしょうか。とりわけ不戦を誓った「9条」のもとで、最大限許されるのは専守防衛に徹する自衛隊であるという

認識は、憲法の理想と現実政治を繋ぎあいの線に両立させる知恵として国民に広く共有されてきたはずです。

これを変更して、集団的自衛権を行使できる自衛隊にするのであれば、憲法改正の手続きを踏んで国民に信を問わなければなりません。軍事力の行使は、このように形であれ流血の惨劇につながる危険をはらみます。根拠法の制定にたいしては慎重であってほしいと願います。

法案が一度撤回されるべきです。憲法の理想を損ないつつある冷静に、国民の英知を結集して改めて議論をねじり直す必要があります。